

## 事業名 ワクワクえほん時間～親子で絵本に親しもう～

【期 日】 令和7年3月1日（土）

【活動場所】 国立阿蘇青少年交流の家

【参加者】 5家族19名(保護者6名、8歳児4名、6歳児4名、5歳児2名、4歳児1名、3歳児2名)

【講師】 吉田 美樹（「出張絵本屋モフ books」代表・絵本専門士）

### 1 趣 旨

創作などの体験活動や絵本専門士のワークショップを織り交ぜることで、読書活動から得た子どもたちの想像力や好奇心を満たす場を提供し、「読み聞かせ」が親子のコミュニケーションの一助となるようにサポートする。

### 2 目 標

- (1) 参加者の8割以上(保護者、子ども)が、読書活動を今後も続けたいと考える。
- (2) 参加者の8割以上(保護者)が、親子のコミュニケーションの手段として読み聞かせが有効だと感じる。
- (3) 参加者の8割以上(子ども)が、読書活動に楽しさを見出すことができる。

### 3 事業展開

- (1) 研修プログラム

時刻	内容等
12:45	参加者集合・受付
13:00	全体の流れ説明・講師紹介
13:10	子どもへの読み聞かせ（絵本専門士 吉田氏）
13:50	・【保護者向け】読み聞かせレクチャー（絵本専門士 吉田氏） ・【子ども向け】しおりの材料集め
14:30	親子でしおり作り体験
15:20	・焚き火の絵本 読み聞かせ（絵本専門士 吉田氏） ・焚き火
16:15	解散

- (2) 活動の様子



【↑読み聞かせ】



【↑保護者向けレクチャー】



【↑しおりの材料集め】



【↑たき火】

## 4 評価、成果と課題

### (1) 評価

① 満足度（回答者 5 家族 19 名：保護者 6 名、8 歳 4 名、6 歳 4 名、5 歳 2 名、4 歳 1 名、3 歳 2 名）

質 問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
絵本の読み聞かせや、読書活動は楽しかったですか。 ※子どもに向けたアンケート	回答数 (人)	12	1	0	0
	割合 (%)	92	8	0	0
今回のワークショップを通して、「読み聞かせ」が親子のコミュニケーションに有効だと感じましたか。	回答数 (人)	5	0	0	0
	割合 (%)	100	0	0	0
今後も、読書や読み聞かせの活動を続けていきたいと思えますか。	回答数 (人)	5	0	0	0
	割合 (%)	100	0	0	0

※子どもに向けたアンケートは口頭にて実施

※書面でのアンケートは家族ごとに実施したため、5 家族分の回答となる

### ② 感想

#### 【保護者】

- ・ 絵本の時間は自分の中で大切にしてきたつもりだったが、改めて、絵本専門士の話を聞いて大事にしていこうと思えた。
- ・ 来年もイベントをしてほしい。焚き火の準備などいろいろとお世話になった。
- ・ またこのような機会を楽しみにしている。
- ・ 改めて絵本の良さを感じることができた。子どもとの時間を大切にしたいと感じた。

#### 【子ども】

- ・ 絵本（の読み聞かせ）や落ち葉遊びをまたやりたい。
- ・ 焚き火のまわりでみんなとおやつを食べたのが楽しかった。
- ・ しおり作りが楽しかった。
- ・ マシュマロを焼いて食べたことが楽しかった。

### (2) 成果

- 絵本専門士と事前に打ち合わせを行い、今回の事業の趣旨や目的を伝えていたので、こちらの趣旨に沿った絵本を選書し、レクチャーに臨んでいただくことができた。
- 読書活動と体験活動を組み合わせたプログラムは参加者の満足度が高く、目標を達成することができた。今後同様のイベントを実施してほしいという希望も多かった。読書活動を取り入れた教育事業のニーズの高さを確認できた。
- 絵本専門士に SNS アカウントでの広報を依頼したことで、元々絵本に興味のある数名の保護者から応募していただいた。講師の SNS アカウントのフォロワーが多い場合に広報に協力していただくと、より効果的であることが判明した。

※今回の吉田氏の Instagram フォロワー数は約 2,200 人

### (3) 課題

- 活動途中、負傷の危険がある際に注意喚起を行ったが、活動中だとなかなか集中して聞いてもらえないため、要点を活動前にまとめて伝達しておくべきであった。
- たき火の際に各家族で読書や読み聞かせをしてもらう時間を設けていたが、たき火や飲食に意識が向き、あまり本を読む姿が見られなかった。読書と焚き火を組み合わせるならば、飲食のタイミングを調整するなどの検討が必要だと感じた。